第3種郵便物認可 【月ぎめ定価 朝刊3400円(本体3149円＋税251円)】1部売り(税込み)朝刊150円

県内 増える「墓じまい」

墓撤去し永代供養や樹木葬利用

代々守ってきた墓を撤去する「墓じまい」や、寺や霊園の納骨堂で遺骨を管理してもらう永代供養が、県内で広がっている。核家族化や少子高齢化の進行に伴い、墓を継ぎにくくなっている人が増えたことが背景にある。永代供養の一種で、コンパクトな墓を構えて桜の木などを周りに置く樹木葬の利用も多い。人口減少が進む中、こうした傾向はさらに強まりそうだ。

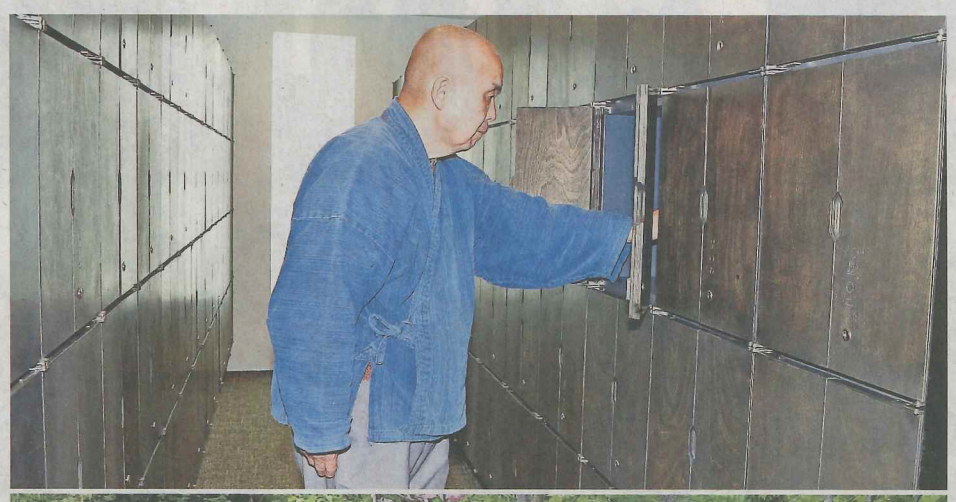
美馬市脇町猪尻の真言宗・最明寺は、約5年前に永代供養の納骨堂を整備。200基を用意したところ利用が多かったため、昨年、新たに1施設を建てた。ロッカーのように仕切られた区画の中に遺骨を入れる。

昨年は約20件の契約が成立した。「子どもが都市部で就職して古里に帰らない」「結婚して家を離れた」などの理由で、自分の代の後は墓を管理できる人がいないためという人が多いという。

2022年には、血縁関係のない人たちの複数の遺骨を一緒に埋葬して土にかえす合祀墓も整備した。下泉全暁住職(70)は「墓がなくなるのは決して喜ばしいことではない。とはいえ、人口減少が加速度的に進む状況で、墓を管理できずに困っている人たちの受け皿になればと考えている」と語る。

墓石製造販売のハマダ石材(鳴門市大麻町桧)では、5年ほど前から「墓を撤去してほしい」という注文が急増している。22年は20件余りだったのが、昨年は約50件あった。墓を処分した後は、寺などで永代供養をする人がほとんどだという。逆に本業の墓石の販売が減っているという。

背景に核家族化・少子化



【上】各区画に遺骨が入った永代供養の納骨堂＝美馬市脇町の最明寺【下】桜の木の下に並ぶ樹木葬向けの小さな墓＝徳島市名東町3の名東霊苑

同社に依頼して墓石を撤去し、寺に永代供養を頼んだ藍住町の60代女性は「結婚して家を出た一人娘に墓の管理で負担をかけたくなかった。永代供養の納骨堂には、私たち夫婦の分も骨を入れるよう、手続きを済ませている」と言う。

真言宗・錦榮寺(徳島市名東町3)が同所で運営する名東霊苑は、桜の木の下にプレート状の小さな墓がある樹木葬の区画を設けている。樹木葬を始めた10年前は16基だったが現在は約200基に増え、約8割が埋まっている。桜はソメイヨシノやテマリザクラなど十数種類あり、バラやビオラなどの花も植えている。

最初に料金を払えば追加の出費はなく、寺が墓の掃除を含めて永代供養してくれる。通常の墓に比べて価格が2～5割ほど安いのも人気の理由とみられる。バリアフリーに配慮し、区画間の通路のスペースを広くしており、段差もない。山村光城住職(50)は「公園をイメージして整備した。おしゃれだという理由で購入する人もいる」と話している。

(木村恭明)

憲法の在り方 考える契機に

あす 護憲・改憲団体が催し

日本国憲法施行から77年となる憲法記念日の3日、県内の護憲団体や改憲を目指す団体が徳島市内で集会を開く。ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争が深刻化する中、憲法の在り方を考える。

「九条の会徳島」は午後1時半から、講演会「戦場から見た憲法9条―ウクライナ、ガザ、アフガンからの報告」をあわぎんホールで開く。紛争地で取材を続けるフリージャーナリストの西谷文和さんがウクライナやガザの映像を交えながら話す。事前予約不要、資料代500円。

午前10時からは徳島駅前で、反核・憲法フォーラム徳島など護憲4団体が「憲法街角トーク」と題して街宣活動を行う。

改憲主張の日本会議県本部は午後1時半から、徳島市雑賀町の県護国神社で総会を開く。(木下真寿美)

ショウブ香り「いい湯だな」

ショウブの香りを楽しみながら入浴する園児＝徳島市津田本町3の昭和湯

断水の復旧指針 市町村向けに策定

県、WGで方針示す

県は1日、能登半島地震を踏まえて県内の断水対策を検討するワーキンググループ(WG)の第3回会合を県庁で開き、市町村に向け、被災後速やかに給水作業や復旧工事などを行うためのガイドラインを策定する方針を示した。

ガイドラインは、市町村が災害時対応マニュアルを課では、職員たちが上着を着用せず、涼しげな藍色のシャツなどで業務に当たっ

海自ヘリ墜落 不適切な発言の鹿屋市長に抗議

小松島市議会が決議

伊豆諸島の鳥島沖で墜落した海上自衛隊ヘリコプターに関する鹿児島県鹿屋市の中西茂市長の不適切発言を巡り、小松島市議会は1日、本会議臨時会議で発言に対して断固抗議する決議を全会一致で採択した。

決議は安平剛之議長を除く全議員15人の連名で提案。「国民の生命と財産を預かる行政の長としての自覚のなさが露呈された」「命の大切さを軽んじる発言は許されるものではない」と強く糾弾し、中西市長に責任を果たすよう求めている。鹿屋市議会に対しても「市長が責任を果たすよう正してほしい」とする意見書を送る。

中西市長は4月23日、墜落した小松島航空基地(小松島市和田島町)所属の1機を含むヘリ2機と同型機が掲載された記念切手シートを日本郵便から贈られた際、「事故後すぐの写真だから値打ちがあるのでは」などと発言。市長は後に発言を撤回、謝罪した。

安平議長は「発言を撤回し、謝罪しても小松島市民として許せるものではない」と話した。

(佐藤陽香)

【紙面編集】杉本宏文

大塚シロアリ
☎643-0666 国府町
予定が変更される場合がある。他の幹線道路でも随時実施中
国道318号

GS
Grand Seiko
グランドセイコーフェア
5月31日(金)まで開催中
Jewelry & Watch boutique
IKEDA